

第31回 明治神宮人形感謝祭を開催

人形に感謝する会



屋根が新しくなった本殿



雨の中での祭典となった



山田 徳兵衛 実行委員長と北白川 会長



今年も（一社）日本人形玩具学会の協力を得て鑑定保存された歴史的・文化的価値のある人形類を展示する「第25回 思い出人形展」を開催。会期中の10月4日(金)から6日(日)は、社務所内特設会場に多くの来場者が訪れた。

第25回 思い出人形展

人形に携わる企業人とその企業・団体が組織されている「人形に感謝する会」（北白川慶子会長）は十月六日(日)、東京都渋谷区の明治神宮において、第三十一回人形感謝祭を開催した（後援／（一社）日本人形協会、協力／（一社）日本玩具協会、東京玩具人形協同組合・東京都ひな人形卸商協同組合・東京都雛人形工業協同組合・（一社）日本人形玩具学会、協賛企業二十社）。

今年祭記念事業の一環である社殿群の修復工事が完了。新しくなった銅板屋根の本殿にて、祭典が行われた。大太鼓連打で始まり、御霊あげ、神職による祓いの「清祓の儀」、巫女による神楽「浦安の舞」の奉奏、玉串奉奠とつづいた。感謝祭の神事は、最後に大太鼓の連打で終了となった。

受付が始まってしばらくしてから激しく雨が降り出したが、参加者は途切れることなくつづいた。人形を納め、ひとがたの記入と奉納のあとは、自分が持ち込んだ人形が飾られた奉納台で写真撮影する姿も。終盤には好天となり、日本独自の文化を多くの外国人観光客が興味深そうに見学していた。

また今回も、（一社）日本人形玩具学会の会員たちによって、御所人形や三つ折れ人形などが、歴史的・文化的に貴重な人形も看取された。これらは同神宮で大切に保存され、毎年行われる「思い出人形展」で展観できる。今年の参加者は約七千人、持ち込まれた人形類は約四万二千体。本殿前庭には、回廊と回廊下以外にも特設テントが設けられた。



日本語のほかに英語・韓国語・中国語の説明を書いたボードが随所に備え付けられた。熱心に読む外国人観光客



自分たちが持って来た人形を見つけて、最後の別れ

人形感謝代行サービス 第15回感謝祭を斎行

(一社) 日本人形協会

十月二十四日(木)、(一社) 日本人形協会は東京都千代田区の東京大神宮で、人形感謝代行サービス第十五回感謝祭を実施した。平成三十年十月一日から令和元年九月三十日までの全国からの申し込み件数は、四千百五十四件となった。

同協会からの参加者は、金林健史会長、倉片順司広報委員長、駒田健治事務局長の三人。また、人形感謝代行サービス事務局の伊藤友紀代表、日本郵便(株)の高橋春彦氏、旭化成ホームズ(株)の



祭典の様子。写真上は斎主一拝、下は巫女による「豊栄の舞」の奉奏

藤川無学チーフと尾崎貴恵さんの四名も出席した。

祭典は拝殿で斎行された。修祓につづいて、斎主一拝、祝詞奏上、「豊栄の舞」の神楽奉奏が行われた。次に玉串奉奠、寄せられた人形類の魂を祓い清め、感謝を捧げる神事が執り行われた。

この事業は、同協会が日本郵便(株)と提携して、平成十八年から実施している。ホームページやフリーダイヤルから申し込みを受け付け、ゆうパックを利用して集荷、毎年十月中旬にこの感謝祭を執り行っている。ハウスメーカー各社の協力により、住宅購入者向け会報誌にも情報を提供している。

第5回節句予祝の会 を開催

十一月五日(火)、愛知県名古屋市の「愛知菓子会館 三階会議室」において、第五回節句予祝の会(暮石雅也代表理事)が行われた。参加者は十九名。

この節句予祝の会は、明るい将来の展望を描ける節句人形業界にするために、持続可能な啓蒙の形を模索していくこと、を主な趣旨として結成された。メンバーの就業地域・年齢・業態などを不問とする有志の会。(一社) 日本の節句文化を継承する会(徳永深二会長)の『未来への懸け橋』プロジェクトで参集したことが発足のきっかけとなった。「予祝」とは(あらかじめ)「祝い、前祝い」の意味で、期待する結果をあらかじめ模擬的に表現すると、そのとおりの結果が得られる、夢が実現するという風習に基づいて行われる。第五回では前回決議された「ひな素麺」の事業化と、SNSを利用した節句のアピールについて話し合われた。



「ひな素麺」は、実際にあった風習から着想を得た企画。ひな祭りを祝ったあとに、ひな人形に素麺を供え、人形を片付けるときに「直会」として食べてもらおうというもの。ひな人形を購入した客に、この素麺を「ひな素麺」としてプレゼントし、コミュニケーションツールに活用する事業だ。この日は、素麺とセットにする器の件、アイコンやキャラクターについて議論された。

またSNSについては、同会のメンバーで決定した同じ日時に、一斉配信する具体的な内容が話し合われた。

盆提灯新作商談会

フジキ工芸産業

（株）フジキ工芸産業は十月十六日（水）・十七日（木）の二日間、東京都中央区の「日本橋プラザ」三階にて、盆提灯新作商談会を開催。

今年は「故人への感謝の気持ち」をかたちに」をコンセプトに、新作を多数発表。都市型仏壇に合う、洋風の絵柄に華やかな彩を取り入れたものや、昨年発表以来、好評を博しているピンクの帯状のラインを施した提灯の新作として、紫とピンクの2本のラインを入れたものなど、オリジナリティーあふれる商品群が揃った。

なかでも注目を集めたのは「愁霊燈 メッセージ提灯」。



愁霊燈メッセージ提灯

一文字2・5cm以上で、見守ってくれてありがとう」など、25文字以内オリジナルメッセージや、家紋も入れられる。高さは約70cmと約57cmの二種類用意。

また、場所を取らずに置ける長方形型の「あかりモダン」シリーズも、絵柄の面積をより大きくし、より優美に。毎年評判の「クレマチス」は、高さ70cmの紋座付き特大サイズを導入。一年中飾っておける、デザイン性の高い一品に仕上げた。同シリーズは他に、「梅かすみ」「曙菊」など絵柄もサイズも豊富に展開している。



都市型仏壇と調和する人気のラインナップ

会場では、絵描き職人による手描きの実演が行われ、注目を集めた。初めて見る、いくつかの火袋を並べ順に部分を描いていく工程に、見入る来場者があったと絶大なかった。



（二社）日本人形協会
会 員 情 報

〈大阪支部〉

▼（株）久宝堂は十月、役員を左記のように変更した。

代表取締役会長 又吉康隆
代表取締役社長 又吉康夫

「にんぎょう日本」では
皆さまからの各種ご投稿を募集しております。

① 各地のイベント情報

節句や人形に関するイベントの情報をお寄せください。

② 各種投稿（旅行記、体験談、エッセイ等）

テーマは問いません。節句人形業界について考えていることや、旅の思い出、趣味など。

〈問い合わせ＆原稿送付先〉・・・「にんぎょう日本」編集室

〒111-0052 東京都台東区柳橋 2-1-9 東商センター4階

☎ 03-3861-3950 FAX 03-3851-8248

E-mail : office@ningyo-kyokai.or.jp

「守護」をテーマに展
示会を開催

久月

（株）久月は九月三十日（月）から十月三日（木）まで、令和二年度新作五月人形展示会を台東区柳橋の本社で開催した。

今年のテーマは「守護」。「獅
狛之大鎧」は、兜の吹き返しと
鎧の袖と佩楯、屏風に勇壮な獅
子と狛犬の金具を配した、堂々
たる風格を感じさせる新作。金
具の金と銀の組み合わせが豪華。
獅子と狛犬は、対で神社などの
入り口に置かれる守護の役割を
持つ霊獣。子どもの（お守り）

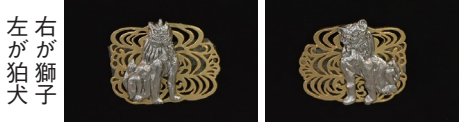


「獅狛之大鎧」



「健」シリーズ

である鎧兜に至適な意匠だ。大
鎧のほかに、兜セットも用意。
さらに、昨年展示会限定品
として発表され好評を博した、
「天」「地」「人」「海」のそれ
ぞれのテーマに合わせて彩をま
とめた「健」シリーズも披露。今年も大
いに来場者の注目を
集めた。



右が獅子
左が狛犬

また、ホームペ
ジもリニューアル。
十店舗ある直営店の、
各々独自の情報を紹
介するページが追加
された。下部には各
店のセレクト商品を
載せ、来店を誘う工
夫がなされている。

第43回久月人形学院作品展

十一月一日（金）から三日（祝）の三
日間、本社二階・三階ホールに
おいて、令和元年記念 久月人
形学院「人形作品展」が開催さ
れた。

木目込人形の部ではテーマを
統一せず、各教室ごとに設定。
関心を集めたのは、毎年大作を
制作している大塚久花教室の
「私のアリス 不思議な夢の冒
険」。周知の『不思議の国のア
リス』をイメージして作られた。
トランプの兵隊、イモムシ、チ
ェシャ猫と、様々なキャラク
ターが勢揃い。個性豊かな作品
群にしばらくの間見入る人が後



「私のアリス 不思議な夢の冒険」

即位礼正殿の儀
を表した「慶祝
新御世へ」



を絶たなかった。

押絵の部では、「江戸の物売
り」と「花いろいろ」がテーマ。
万葉集に詠まれた花を押絵にし
た「万葉の花」は、令和元年の
企画に抜群のタイミングでの披
露となった。また、亚克力板
に押絵を施した、質感の違いに
よって斬新さを演出するものな
ども披露された。この他教授資
格認定者で組織される「華麗
会」のメンバーの秀逸な作品や、
学院生が一生懸命制作したこと
が伝わってくるような作品など、
約三百点以上が展示された。



押絵作品「万葉の花」

ちりめん細工のつまみかざしワークショップの様子。講師は海野則明氏



藤村光環氏の頭づくりの実演



市松人形師

- 藤村一門 ■
- 藤村光環
- 二代 藤村紫雲
- 山崎明咲
- 松乾齋一門 ■
- 三代 松乾齋東光
- 岩村 亮
- 味岡一門 ■
- 二代 味岡映水
- 味岡寛樹

創作人形作家

- | | |
|-----------|--------|
| ■ 前半 ■ | ■ 後半 ■ |
| 稲邊智津子 | 月見月 |
| 松浦加代子 | 森 馨 |
| 川北すび子 | 丸美鈴 |
| 水澄美恵子 | ちゃお |
| 山下沙衣 | 井桁裕子 |
| 藤本晶子 | 吉永たか代 |
| 松本みね子 | 大塩雅子 |
| fuyo doll | 長谷川裕子 |
| 神原由利子 | ゴトウユミコ |
| 大野美香 | |

ちりめん細工

- 石川微美
- 堀 結美子
- 海野則明

十月二十五日(金)から十一月三日(祝)まで、台東区浅草橋の吉徳浅草橋本店一・三・四階にて、「第八回 にんぎょううら展」(主催/市松人形「啜啄の会」、後援/株吉徳・(一社) 日本人形玩具学会)が開催された。今年初めて、本店に先がけて札幌店でも同展が挙行された。

本店では、前半を十月二十九日(火)まで、後半を十一月三日(祝)までとして、創作人形の展示替えを実施。

一階は十月二十五日(金)から二

十七日(日)まで、博多人形特集として、伝統工芸士である多田明正氏の「土の華」展を開催。伝統的なものから斬新な新しいデザインのものまで、彩色と造形の美しい博多人形が展示された。

三階では、市松人形師七名、創作人形作家十九名(前半十人・後半九人)の約三百点の作品が並んだ。さらに、東西のちりめん細工作家三名による「ちりめん細工の世界展」、市松人形の衣裳用の「古裂販売」、セレクトショップ「お人形の着

物・小物販売」と、企画が充実。毎年人気で、予約抽選に多くの応募があるワークショップも、人形のボンネット作りなど八講座設けられた。

また十一月三日(祝)には、人形遣い・黒谷都さんの「市松さんだって踊りたい!」と題した特別講演が行われた。参加者は、藤村光環氏が特別に制作した市松人形を黒谷さんが操る、とい

う絶好のプログラムを堪能した。四階では「お人形の骨董市」を併催。これは郷土人形から人間国宝の作品、西洋人形など、多様な人形が会する人形だけの骨董市。毎年楽しみに通う来客の姿も見られた。

作家と直接ふれあえる一年に一度の大事な機会に、連日根強いファンなどが多数訪れ、盛況のうちに終わった。

第8回 にんぎょううら展 伝統と創造が出会うとき

吉徳



干支も楽しむ「箱入り娘・箱入り坊や」。抽選販売の「箱入り娘」に「箱入り坊や」が登場。4号(約14cm)の小さい市松人形。今年も可愛い川北すび子さん製作の干支ねずみもセット



創業百周年記念
合同作品展を実施

真多呂人形

本年、創業百周年を迎える(株)真多呂人形。十月十九日(日)から二十一日(月)の三日間、東京都台東区の「東京都産業貿易センター 台東館」四階にて、創業百周年記念合同作品展を行った。同社は大正八(一九一九)年、

初代金林真多呂氏によって創業された。真多呂人形学院は、昭和四十一(一九六六)年に開校された木目込人形専門校。この教授と生徒の合同作品展は、五年ごとに開催されている。今回は創業記念で、学院としては二



友人と連れ立って来る生徒や、自分の作品の写真を撮る人など、会場は大いににぎわった



「大国主命」理事長 三世 金林真多呂



▼「梅花の宴(合同作品)」三世 金林真多呂・金林真一郎

年後の令和三(二〇二一)年、五十五周年となる作品展を控えている。

広い会場いっぱい集まった作品群は圧巻で、変わった題材のものや技術を追求したものなど多彩。来場者は人形の世界観に魅せられながら、思い思いに作品を見て歩いていった。また初日の十九日には、同区の浅草ビューホテルで記念パーティーも行われ、大盛況のうち

未来への懸け橋

構築事業九州支部編

(一社)日本の節句文化を継承する会

(一社)日本の節句文化を継承する会(徳永深二会長)は十月十八日(月)、福岡市博多区のTKP博多駅筑紫ロビネスセンターにおいて、九州支部「未来への懸け橋」構築事業を実施した。

冒頭、日本人形協会九州支部青年部長の福永良太氏が挨拶。ついで、柴崎稔専務理事の進行のもと座談会が開始された。



議題は「五節句の理念や本質について」。上辺、カタチより理念や本質を重視する若い世代にこそ、節句の本質をPRしていくべきなど、白熱した議論が展開された。優先事項として挙げられたのは、業界内の意見や見解の統一化である。

閉会の挨拶は支部長の青木資行氏。「九州が一丸となり、節句文化を盛り上げていきましょう」と締めた。柴崎専務理事は「今後の展開に大いに期待が持てる」と確信いたしました」と感想を述べた。